

## 軽井沢観光エリアの回遊性の実態と改善に関する研究

## Research and Improvements for the Current Tourist Access Situation in Karuizawa

○アンドレチェック 怜<sup>1</sup>, 中島 朗登<sup>1</sup>, 上原 章宏<sup>1</sup>, 檜山 明来<sup>1</sup>, 原 英里子<sup>1</sup>, 福原 亜美<sup>1</sup>, 小木曾 裕<sup>2</sup>

\*Ray Andrechek<sup>1</sup>, Akito Nakajima<sup>1</sup>, Akihiro Uehara<sup>1</sup>, Akira Hiyama<sup>1</sup>, Eriko Hara<sup>1</sup>, Ami Fukuhara<sup>1</sup>, Yutaka Kogiso<sup>2</sup>

Abstract: The current situation in Karuizawa is that access between the major tourist sites is limited for all types of transport. Karuizawa is an interesting city with fascinating tourist sites but the situation is not ideal as these areas are not united. The distances from one area to another are not easily traversable for tourists. Therefore surveys were conducted at three different major sites to find out peoples' opinions on this matter with the goal of formulating a solution.

### 1. 背景と目的

軽井沢は長野県の東端に位置し、1886年に英国聖公会教師A.C.ショーにより軽井沢が避暑地として著名人に紹介され、その後に軽井沢初となる別荘を建て、以来政界や財界人を中心とした高級別荘地としての地が広まった。現在は別荘地や避暑地としての日本を代表する観光地となっている。

近年日本各地の観光地では、回遊性を高める取り組みが模索されている。軽井沢は大きく分けて旧軽井沢・新軽井沢・中軽井沢・北軽井沢・南軽井沢・塩沢・追分エリアの7つに分けられるが、それぞれ位置が離れていることから移動にかかる労力が大きく、回遊性が低いと推察する。そこで本研究は、各観光エリアへの観光客の回遊性の現状とその交通手段及び原因解決の模索と提案をすることを目的とする。

### 2. 調査方法

調査方法は、星野リゾート「ハルニレテラス」・旧軽井沢銀座通り・軽井沢プリンスショッピングプラザの観光客が集中する3つのスポットを選定し、立面式アンケート調査を2019年8月6～7日に調査員6名で行った。

### 3. 結果と考察

アンケート調査の回答者数は341名であった。「来訪したエリア数」に関する回答は2ヶ所が115件で最も多く、次に3ヶ所が76件で1ヶ所が61件であった。1ヶ所または2ヶ所の回答者の「来訪した観光エリア」に関する回答は「旧軽井沢エリア」「新軽井沢エリア」

「中軽井沢エリア」のいずれかの回答が95%であった。また、回答者の64%は「旧軽井沢エリア」「新軽井沢エリア」「中軽井沢エリア」のいずれかに集中して来訪している事から回遊する上での中心的なエリアとなっている事が分かった。

「来訪したエリア数」が2ヶ所以下の回答者の「軽井沢での移動手段(複数回答可)」に関する回答は「自転車」が28%で最も多く、次に「自動車」16%であった。3ヶ所以上の回答者の「移動手段」は「自動車」が67%で最も多く、次に「バス」28%であった。このことから、3ヶ所以上の観光エリアに来訪するためには自動車やバス等の利用が不可欠であることが分かった。しかし、「軽井沢への交通手段」に関する回答は「自動車」の回答者は53%、「新幹線」の回答者は35%、バスの回答者は5%、「レンタカー」「JR在来線+高速バス」の回答者は同じく3%で「その他」が1%であった。よって、約半数が自動車を利用せずに来訪している事が分かる。

「交通手段」に関する回答で「自動車」以外の回答者の「移動手段(複数回答可)」に関する回答は「自動車」が7%、「バス」が48%、「電車」が23%、「自転車」が28%、「タクシー」が9%、「徒歩」が38%であり、バスの利用割合が大きいことが分かった。

これらの結果から、旧軽井沢エリア及び新軽井沢エリアに観光客は集中し、続いて中軽井沢エリアが多く、これらを中心に他のエリアにも来訪していることが分かった。しかし、全体の約5割が他のエリアに来訪していない事から回遊性が高いとはいえない。その原因には「車がないから」「バスの本数が少ないから」「既に行ったことあるから」「興味がないから」等様々な意見が挙げられた。以上のことから、これらを改善することにより、観光客の回遊性が高まり、軽井沢の観光地としての更なる活性化が期待できると考える。

#### 謝辞

本研究においてはアンケート調査のご承諾を頂いた星野リゾート「ハルニレテラス」、軽井沢プリンスショッピング、旧軽銀座「ちもと総本店」及びアンケートにご協力頂いた方々に感謝申し上げます。